

海水浴場における利用者数向上に関する基礎的研究

Basic study on ridership improvement in the beach

○宮川寛¹, 山本和清², 宮崎渉³*Tomo Miyakawa¹, Kazukiyo Yamamoto², Wataru Miyazaki³

Abstract: In recent years, the number of users at the beach has declined greatly as the "sea departure" centered on young people progresses. As a result, about 10 beach sites are forced to close annually. However, there is also an increasing beach. In this research, we clarify the factors. Based on the questionnaire results, the user is also requesting leisure other than swimming at the beach, and it is also considered that attracting attendance at events etc is also effective. Also, it is also effective to encourage advertisement by narrowing the target area. In addition, the rate of decrease was reduced by PR to the Kanto region by advertisement on HP, newspaper advertisement, highway to metropolitan areas such as the Kanto region. Detailed analysis will be carried out according to the questionnaire collected in the future.

1. 研究背景

近年、若者を中心とした「海離れ」が全国的に進んでいる。2017年に日本財団が行った「海と日本」に関する意識調査^[1]によると、50代や60代は「海に親しみを感じる」と答えた人が40%余りに対して、10代の人には「余り親しみを感じない」と答えた人が42.5%であった。また、日本生産性本部のレジャー白書^[2]によると、国内の海水浴場の利用者数はピークだった1985年の約3790万人から2015年には約760万人と約5分の1にまで減少した。海水浴場の利用者数の減少の影響を受け、全国の海水浴場の数は2005年には1264箇所から2015年には1111箇所となっており、毎年約10箇所の海水浴場が閉鎖に追い込まれている。

しかし、全国的に海水浴場の利用者数が減少している中であまり減少していない、または増加している海水浴場もあるが、それらの海水浴場の要因は明らかとはなっていない。

2. 研究目的

本研究では、環境省が水質調査を行っている全国722箇所の海水浴場を対象に、2013年から2017年までの5年間で利用者数が大きく減少している海水浴場と大きく増加している海水浴場の施策に着目した。

選定した海水浴場の利用者数が増加又は減少した要因を抽出し、海水浴場が行った施策を比較することで今後の海水浴場の普及策の一助となる知見を得ることを目的とする。

3. 研究方法

3.1 調査対象地

本研究では海水浴場の利用者数が増加している海水

浴場と減少している海水浴場を比較するため、対象地として、環境省が水質調査^[3]を行っている全国722箇所の海水浴場を対象に2013年から2017年までの5年間で利用者数が大きく増加した海水浴場10箇所（居組海水浴場、磯原二ツ島海水浴場、大間越海岸、栄松ビーチ、住吉浜リゾートパーク、瀬田海浜公園、底土海水浴場、マグアビーチ、諸寄海水浴、りんくう海水浴場）と、大きく減少した海水浴場10箇所（石地海水浴場、いなげの浜海水浴場、金ヶ浜海水浴場、かわうち・まりん・ビーチ、高浜海水浴場、田ノ浦海水浴場、波根海水浴場、湯原海水浴場、鷺ヶ巣海水浴場、和田浦海水浴場）の合計20箇所を選定した。調査対象地をFigure 1に示す。増加している海水浴場を赤字、減少している海水浴場を黒字で表記した。

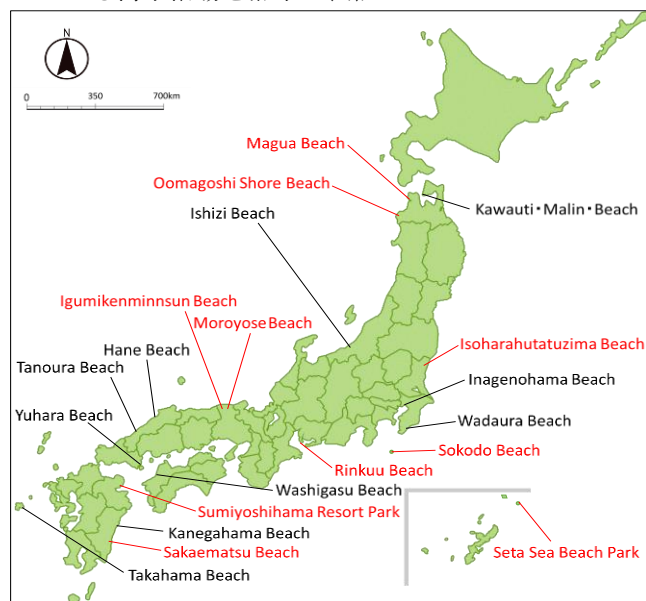


Figure 1. Subjects of survey place

1 : 日大理工・学部・海建 2 : 日大理工・教員・海建 3 : 日大工・教員・建築

3.2 アンケート調査

本研究では抽出した 20 箇所の海水浴場の管理者に対して E-mail と郵送による海水浴場の利用実態調査におけるアンケート調査を行った。アンケート概要を Table 1 に示す。

Table 1. Survey Overview

Investigation period	9.10 ~ 9.24.2018	
Survey target	20 beaches nationwide	
Survey method	Questionnaire survey	
Survey item	About the beach	Total 7 items
	About the present conditions of a nationwide beach	Total 1 items
	About the present conditions of the target beach	Total 1 items
	About a hardware surface of the target beach	Total 1 items
	About a software side of the target beach	Total 2 items
Recovery rate	20 places (response rate 25%)	

4. 調査結果及び考察

現時点のアンケート回答数は 11 箇所（回収率 55%）である。そのうち、海水浴場の利用者数が大きく増加している海水浴場 5 箇所、大きく減少している海水浴場 6 箇所となっている。

4.1 海水浴場の利用者数の増減要因の把握

現時点でアンケートの回答が得られた海水浴場の石地海水浴場と大間越海岸、金ヶ浜海水浴場、かわうち・まりん・びーち、栄松ビーチ、住吉浜リゾートパーク、底土海水浴場、田ノ浦海水浴場、マグアビーチ、鷺ヶ巣海水浴場、和田浦海水浴場では、管理者として管理している海水浴場の増減要因を把握している海水浴場は 11 箇所中 6 箇所のみであり、約半数の海水浴場では管理者が把握できていなかった。

4.2 海水浴場のハード面の整備

海水浴場のハード面の整備として、アンケートの回答が得られた、海水浴場の利用者数が増加している海水浴場 5 箇所と、減少している海水浴場 6 箇所に利用者数を増加させるために行ったハード面の整備に当てはまる項目を選択してもらい現状を把握した。Table-2 に項目内容を示した。

Table 2. Hardware installation status

Maintenance point	Sea house	Maritime Athletics	Changing room	shower room	Coin locker
Increasing (5 places)	1	0	2	1	0
Decrease (6 places)	3	0	0	0	2
	toilet	access	Disabled facilities	Photo spot	Advertisement signboard
	3	3	0	0	1
	Parking Lot	A watchman	Beach maintenance	Other	
	3	2	2	4	3
					1
					0

利用者数が増加している海水浴場では、海浜整備が 5 箇所中 4 箇所（80%）整備されており最も多く、次にトイレ、駐車場、監視員の設置が 3 箇所（60%）で行われていた。また、減少している海水浴場では、海の家、更衣室、コインロッカー、トイレ、広告看板、海浜整備が 6 箇所中 3 箇所（50%）で行われていた。

海水浴場の利用者が増加している海水浴場では、海浜整備の割合が最も高く、減少している海水浴場とは整備率に大きな差があることが把握できた。底土海水

浴場は日本で珍しい黒い砂の海浜で、名所となっているため離島の海水浴場で利用者数を向上させていた。また、駐車場や監視員の設置率にも差があり、マグアビーチでは青森県内で唯一ライフセーバーがいることで、海水浴場を安心して利用することができ、子供から大人までもが楽しめる海水浴場となっていた。

以上より、海水浴場の海浜整備や駐車場、監視員の設置が海水浴場の利用者数向上に寄与しているものと考えられる。

4.3 海水浴場のソフト面の施策

アンケート調査によって回答が得られた海水浴場の利用者数が増加している栄松ビーチでは、シーカヤック体験プログラムに加え、キャンプ場を併設し海水浴場に海水浴以外のレジャーを取り込むことによって、海水浴場の利用者のレジャーの多様化に対応しており、レンタル品を充実させることで気軽に利用できるようになっていた。同様に、住吉浜リゾートパークでは海水浴場に接したバーベキューが可能なキャンプサイトの設置や、バーベキュー用の器材が無くてもバーベキューが食べられるコーナーを設置していた。また、敷地内に設置されているホテルで行われている家族向けの宿泊プランに海水浴を組み込み、海水浴場利用者を誘致していた。減少傾向にあった石地海水浴場では HP や新聞広告、高速道路への広告を行い関東圏への PR を行うことで、人口の多い関東圏からの集客を促し、今年度の減少率は小さくなっていった。今後行われる予定の施策として、マグアビーチでは毎年開催されている水泳駅伝と合同したイベントを企画していた。

以上より、海水浴場の利用者数が増加している海水浴場では、海水浴以外に新たなレジャーを取り込み、海水浴場に利用者を集客したことが海水浴場利用者数増加に寄与しているものと考えられる。

5. まとめ

アンケート調査より、海水浴場の利用者数が増加している海水浴場と減少している海水浴場を比較した結果、ハード面では海浜整備や駐車場、監視員の充実。ソフト面では、海水浴場に海水浴以外のレジャーを取り込むことで海水浴場の多様化が有効的だと考えられる。また、地方の海水浴場では都市圏への PR を行うことが有効的だと考えられる。

6. 参考文献

- [1]日本財団「海と日本」
URL: <https://www.nippon-foundation.or.jp/what/projects/uminohi/>
- [2]公益財団法人日本生産性本部「レジャー白書」
URL: <https://www.jpc-net.jp/leisure/>
- [3]環境省「水浴場の水質調査結果」
URL: http://www.env.go.jp/water/suiyoku_cho/index.html